

## 2学期のスタートにあたって

学校長 杉森 伸吉

今年は夏休みも3週間余りでしたが、Go To キャンペーンと自粛要請のはざま、いろいろな悩ましい部分もありだっただのではないかと存じます。そういった制約の中でも、それぞれのご家庭で、より有意義で充実した生活となるように、いろいろと工夫されたことと想像しております。ぜひ、各ご家庭で実行されてよかった取り組みなども、共有させていただければと思います。

昨年のPTA講演会でもお話しさせていただきましたが、いろいろなことが変動し(volatility)、不確実なこと(uncertainty)が多く、状況の複雑性(complexity)が高く、曖昧性(ambiguity)が高いことも多いというVUCA世界は、いまの子どもたちが生きていく今後の世界では、より強まるのがOECDなどでも確実視されている中で、新型コロナの問題は、ひとつの「予行演習」でもあろうかと思えます。

未知のリスクは、恐怖や不安を喚起しやすく、そのリスクから身を守るためには、「何もしないこと」が一番ですが、そのリスクが継続したり強まったりする状況下では、いつまでも何もしないということも、その副作用を強めるリスクを持ってしまいます(身近な例ですと、外出をしないで体を動かさないことによる腰痛や肥満やストレスなど)。あちらを立てればこちらが立たない、というトレードオフが強く意識されるようになります。

こうした中で生きていく力には、何が必要なのか、ということですが、精神的に追い込まれやすい状況でもあるので、ゆとり、ユーモア、そしてある程度の勇気も必要になろうかと思えます。勇気の中身はそれぞれで、「副作用はあっても、何もしないことを続ける勇気」もあれば、「リスクはあっても行動する勇気」などもあるでしょう。もちろんリスクの対象を科学して、正確な知識と対応策を得ることも、大変大事です。マスコミや科学者などの言うことの実偽を見極め情報に流されない情報リテラシーも、大切になります。

新型コロナウイルスに関しては、すでに日本人には集団免疫ができているというデータを示す研究者もいますし、宿主が元気でいてくれるような、弱毒型のウイルスでないと永らえないので、弱毒型が優勢になるという見込みもありますが、現時点では予断を許さぬところです。

2学期も、子どもたちとご家庭の安全・安心に配慮しつつ、学校における教育効果も上げていくという方針に変わりございませんが、様々な行事等については、例年と異なる部分や、コロナに関連した社会情勢に応じた急な変更などもあろうかと存じます。

こうした環境下でございますので、2学期も引き続き、ご家庭との連絡は密に取りつつも、三密を避け、例年とは異なる中にも大泉小学校らしさを出しつつ、一致団結して参りたいと存じますので、何卒よろしく願い申し上げます。